

第9期:2010年4月～2013年3月 モノ・コト・時間の人類学:物質文化の動態的研究

趣旨:近年人類学において物質文化の研究が盛んになってきた。しかしそれらの多くは、モノの背後にある社会関係の分析であったり、あるいはモノにまつわる言語表現の意味論であり、モノのマテリアリティに迫るものではなかった。本共同研究では、モノとヒトとの関係さらにその動態を様々な時間サイクルの中でとらえることによってモノ研究の新しい地平を開拓したい。

研究担当者氏名		
1	後藤 明	南山大学人文学部 教授・第2種研究員
2	石原 美奈子	南山大学人文学部 准教授・第2種研究員
3	木田 歩	南山大学人類学研究所 非常勤研究員
4	桑原 牧子	金城学院大学文学部 准教授
5	ムンシ・ロジェ・ヴァンジラ	南山大学外国語学部 准教授・第2種研究員
6	リースラント・アンドレアス	南山大学外国語学部 准教授・第2種研究員
7	サガヤラージ・アントニサーミ	南山大学人文学部 第2種研究員
8	坂井 信三	南山大学人文学部 教授
9	佐々木 重洋	名古屋大学文学部 教授
10	渡部 森哉	南山大学人文学部 准教授・第2種研究員
11	山崎 剛	南山大学人類学研究所 非常勤研究員
12	吉田 竹也	南山大学人文学部 教授・第2種研究員
研究会詳細		
1	2010年5月26日	全体の打ち合わせ、小テーマの設定と発表者の決定
2	2010年7月21日	【発表1】渡部 森哉 「アンデス文明形成期の神殿社会」 【発表2】坂井 信三 「歴史の中のモスク・時間の中のモスク」
3	2010年10月6日	【発表1】ムンシ・R・ヴァンジラ 「キリシタン神社のもつ感性、価値、効果-枯松神社と山神神社を事例に」 【発表2】後藤 明 「物質文化としてのテキスト-ハワイ日系移民における墓石研究の視座」
4	2011年1月26日	【発表1】吉田竹也 「沈黙としてのシュミラクルの絵画-バリ絵画のアポリティシズム論再考」 【発表2】アントニサーミ・サガヤラ 「インドにおける福音宣教とインカルチュレーションの課題」
5	2011年5月25日	【発表1】アンドレアス・リースラント 「暴走族とメディア - 見せるイメージと見られるイメージ」 【発表2】石原美奈子 「コーヒー」の価値と意味の変容-エチオピア・ジンマ地方の事例
6	2011年7月20日	【発表1】山崎剛 「物質文化について考えない:ホモ・サピエンスの道具研究会の活動報告」 【発表2】木田歩 「学ぶことの人類学」
7	2012年1月8日	【公開研究会】 「技術をモノ語る民族誌の苦悩と悦楽」 大西秀之(同志社女子大) 「技術を語る民族誌の苦悩と悦楽」 金子守恵(京都大学) 「試行錯誤する「手」エチオピア女性土器職人の技術的实践」 小野林太郎(東海大学) 「相互交渉としての漁撈技術:ボルネオ島サマにおける漁撈活動を中心に」 大村敬一(大阪大学) 「技術のオントロジー:自然=社会人類学の弁証法的相互行為論の可能性」

		後藤 明(南山大学)	コメント
		坂井信三(南山大学)	コメント
8	2012年5月23日	【発表1】佐々木重洋	「仮面の物質性再考」
		【発表2】桑原牧子	「エイジェントとしてのタトゥーと物質性の変化」
9	2012年12月15日	成果出版にむけた全体会合	

